

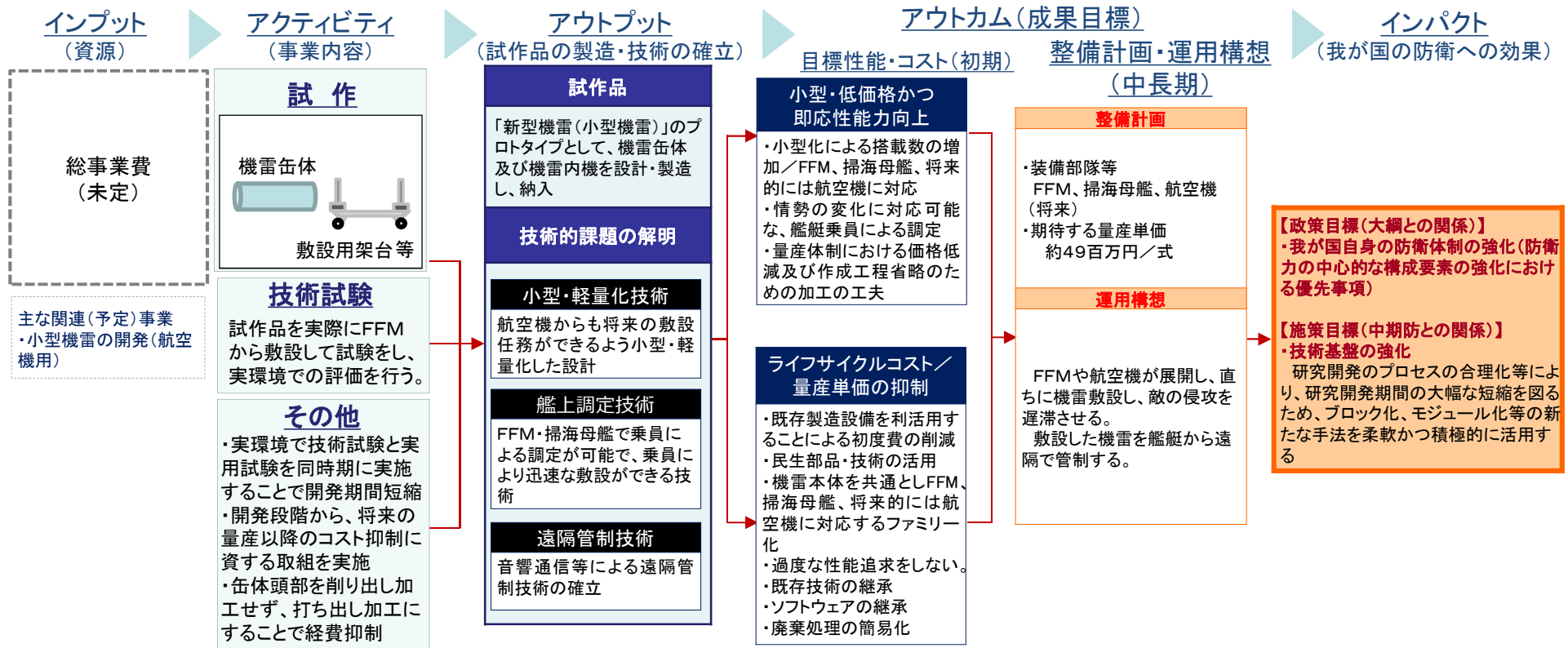
# ロジックモデル(新型機雷(小型機雷)の開発)

## 【事業の概要】

我が国周辺の安全保障環境が厳しさを増す中、有事においては適切に機雷を運用し、我が国の安全を確保する必要がある。そのため、老朽化した従来機雷の代替として、小型・軽量化することで、FFM(もがみ型護衛艦)、掃海母艦、将来的には航空機から迅速に敷設でき、遠隔管制が可能な新型機雷の開発を行う。

## 現状・課題

老朽化した機雷を早期にFFMや掃海母艦から敷設できる新型機雷(小型機雷)に代替する必要がある。また、新型機雷(小型機雷)は航空機による将来の作戦様相にも対応させるため、関連事業に速やかに供試品等を転用させることを考慮し、早期の開発実現を図る。



## <研究開発実施線表>

年度	5	6	7	8	9	10	11
実施内容		本事業(研究試作) 終了予定なし					

## 総合評価

本事業を実施することにより、艦上での容易な調定及び敷設後の音響通信による機雷の遠隔管制が可能となるものであり、必要性が認められる。また、本事業により小型・軽量化技術、艦上調定技術及び遠隔管制技術の確立が見込まれる。当該技術の確立に係る成果については、試作及び技術試験により検証し、当該検証の結果が得られた場合には、我が国の技術力の強化に資することが見込まれる。当該成果は自衛隊のニーズに合致した高度な防衛装備品を創製するための重要な成果であり、最終的に政策目標である我が国自身の防衛体制の強化につながるものである。以上の点から、本事業は自衛隊の運用ニーズや政策体系上の位置付けと一致しており、いずれの政策評価の観点からも適切であると評価できることから、本事業に着手することは妥当であると判断する。